

2021 年度特許フォーラム



特許動向調査委員会主催による「2021 年度 特許フォーラム」を、2022 年 3 月 4 日に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）で開催した。昨年度は COVID-19 の影響により完全オンライン開催となったが、今年度は会場の様子をオンラインで中継するハイブリッド形式にて開催した。当日は賛助会員からの参加者を中心におよそ 40 名の方々にご出席いただき、光産業界における知財・特許への関心の高さ、企業戦略における知財管理の重要性を感じることができた。

はじめに、光協会副理事長兼専務理事の小谷泰久から挨拶があり、続いて特許動向調査委員会の児玉泰治議長から今年度の調査概要紹介、特許動向調査委員会の各委員より調査報告が行われた。先ず、定点観測テーマとして複数年に渡り継続調査を行っている「太陽光エネルギー」、「レーザ加工」、「光センシング・計測」の 3 件に関する調査報告が行われた。定点観測テーマの調査は、原則、日米欧中の 4 極において公開された特許情報を中心とし、テーマ毎に各極における特許出願件数、出願人国別や出願人所属組織（会社・研究機関）の分析などから、今後の各国・地域における市場動向やターゲットビジネスの予測などが報告された。いずれのテーマにおいても、近年では日米欧の出願は横ばいあるいは減少であるのに対して、中国においては継続的に出願増といった傾向が目立ち、興味ある内容を垣間見ることができた。

続いて、特別講師として株式会社イーパテント 代表取締役社長/知財情報コンサルタントの野崎篤志氏をお招きし、「持続可能な社会実現に向けた特許情報分析とその活用－ESG、SDGs、脱炭素の視点から－」のテーマでご講演いただいた。注目が集まるサステナビリティと知的財産の関係や、ESG・SDGs のビジネス活用の考え方、知財業務に求められるビジネス視点などについて、目新しい観点からお話しを伺うことができた。質疑応答では、光産業界が寄与できる SDGs に対する質問が出るなど、盛況のうちに終了した。